

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490
 FAX (078) 361-4539
 編集 「月報」編集委員 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか」と、誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎ 祈り合う交わり。
- ◎ 宣教協議会を開く。
- ◎ 教会ホームページとリーフレット作成。
- ◎ 地域との交流促進。

聖語 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい(ロマ 12:15)。

メシアを待ち望むということ ~復興への期待を込めながら~

エルサレムよ、あなたの城壁の上に わたしは見張りを置く。昼も夜も決して黙してはならない。主に思い起こしていただく役目の者よ 決して沈黙してはならない。また、主の沈黙を招いてはならない。主が再建にとりかかり エルサレムを全地の栄誉としてくださるまでは。(イザヤ書 62:6-7)

司祭 ミカエル 小南 晃

12月に入り、アドベント、そしてクリスマスを迎えようとしています。

今から約2千年前、人々は救い主・メシア(キリスト)の到来を待ち望んでいました。しかし当時の人々は、メシアの到来によってもたらされる救いをどのように思い描いていたのでしょうか。旧約聖書に記された救い主について預言から見てみますと、その多くが、偉大なダビデ王の時代の再来のように、イスラエルの国が栄光に輝く時として思い描かれています。

例えば、降誕日聖餐式の旧約日課のイザヤ書57章の9節には「歎声をあげ、共に喜び歌え、エルサレムの廃墟よ。主はその民を慰め、エルサレムを贖われた」。第1聖餐式の旧約日課、イザヤ書9章の5-6節では、「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた…ダビデの王座とその王国の権威は増し平和は絶えることがない」。また、冒頭の聖句は第2聖餐式の旧約日課の一部です。

私たちは、「救い」ということを、永遠の命を与えられ、天国に入ることとして、どちらかと言えば個人的なものとして捉えているのではないのでしょうか。もちろん、その通りでもあります。しかし当時のユダヤ

人のメシアへの期待は、イスラエルの国の栄光の回復でした。それをひたすら待っていました。だからこそ、イエスが「わたしの国は、この世には属していない(ヨハネ18:36)」、そのような国の王として世に来た時、人々はイエスを無益な、神の冒涇者として十字架に掛けてしまったのでした。

国の復興を望む思い

そうしたことを踏まえながらも、今一度、当時のユダヤの人々がイスラエルの国の再興、エルサレムの栄光をもたらすメシアを待望していたことを思い巡らしたいと思います。

というのは、折しも国政選挙が行われようとしています。この選挙にあたって、街頭インタビューに受けていた人の中に、「まず東日本大震災被災地復興に取り組んで欲しい。それと同時に、日本全体の復興に取り組んでほしい。今、日本全体に復興が必要です」と答えていた人がいて、共感しました。

経済の低迷、就職難と格差の拡大、教育現場や高齢者福祉での諸問題、また外交力などにおいて、日本の国自体が凋落している観があります。こうした国の低迷を嘆く思いがある時、「主よ、イスラエルの

ために国を建て直してくださるのは、この時ですか(使徒言行録1:6)」と、復活の主に問うた使徒たちの思いを、私たちが少し追体験できるのではないのでしょうか。

もちろん、当時のユダヤ人たちの置かれた状況は、ローマ帝国に税金を課せられ、また民族としての誇りを踏みにじられるなど、今の日本とは比べものならないほど過酷な状況でした。そうした状況の中では、国全体、社会全体の復興がもたらされ、また栄光が回復されることを、救いの成就として待望する思いは、個人的な救いの待望と共に、やはり大切な願いだったのです。

愛と信仰によって

私たちは社会全体、また国としての痛みや悲しみにも敏感であるべきです。その時には他国の痛みにも共感できる素地が生まれる筈です。国として、社会全体としての復興を待ち望むと同時に、メシア(キリスト)が、この世的な王として、権力者として、政治家として世に現れたのではないことを心に留めておきたいと思います。

私たちは、世に来られた救い主・メシアを信じ、受け入れることにより、愛に生きるための新たな力を与えられます。私たちは、社会の諸問題から逃避するのではなく、社会的関心を強くして、社会の一員として託された使命を、愛と信仰に従って果たすことが求められているのです。

このクリスマスに、今一度、愛によって社会に関わる信仰と力とを、さらに増し加えて頂くよう、共に祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)